
阪神奈大学ネット『公開講座フェスタ』

「阪神奈大学・研究機関生涯学習ネット（HSN ネット）」では、生涯学習機会の継続的な提供のために、1998年度から毎年度「公開講座フェスタ」を実施しています。

大阪府、兵庫県、和歌山県の22の大学・研究機関が参加、講座をリレー形式で開催。本学も共催校の1校として参加しています。

（公開講座フェスタ 2021年）*終了しました 11月8日（木）～11月30日（火）

【本学参加の記録】

（2021年度）11月22日

スポーツのルールについて考える

澤田 浩（准教授） スポーツは、道具、ルールなどが変化してきています。マラソン選手が履く厚底シューズ、高速水着など随分記録に影響を与えました。バレーボールは、以前はサーブ権を持つチームのみが得点していましたが、現在はすべてのセットがラリーポイント制です。このようなルールの変化は、いつどこで、誰が何のために変更しているのでしょうか？また、競技時間、出場選手の記者会見参加義務、様々な問題もあります。皆さんと一緒に考えてみませんか？

（2020年度）新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催されず

（2019年度）11月15日

大嘗祭を考えるー亀ト（きぼく）の技法をめぐってー

大江 篤（教授） 11月14日15日に天皇即位の儀式のひとつ大嘗祭が行われる。この祭りの斎田は占いで定められた。しかし、その技法は秘事・口伝であり、全容は明らかではない。謎多き、亀トから大嘗祭の歴史を解き明かす。

（2018年度）11月12日

台湾漢人アイデンティティと媽祖信仰

赤井 孝史（教授） 私たちに身近な台湾。しかし台湾の文化は日本とはちょっと違います。今回は信仰に焦点を当て、台湾で有名な神様＝媽祖をテーマに台湾の歴史と文化を考えてみましょう。

(2017年度) 11月9日

奈良・大阪・神戸を結んだ古代の交通－瀬戸内海の交路と渡来文化－

田辺 真人 (名誉教授) 交通路としての瀬戸内海の特徴と地勢、そのターミナルポートとしての浪速津や大輪田泊のはたした役割について考え、古代大陸から伝来した文化を今に伝える地名などについて考えてみませんか。

(2016年度) 11月7日

近松門左衛門の仕事 – 『曾根崎心中』を中心に–

水田 かや乃 (教授、近松研究所 研究員) 近松門左衛門は日本を代表する劇作家です。園田学園女子大学が立地する尼崎市は、近松のお墓の一つがある、ゆかりの地なのです。人形浄瑠璃や歌舞伎の作者として活躍した近松の仕事ぶりを、『曾根崎心中』を中心に考えてみましょう。

(2015年度) 11月12日

石原慎太郎の実像とは？ – 三つの「芥川賞事件」と作家魂を中心にして–

吉村 稔 (名誉教授) 昨年末、政界引退宣言によって当然のごとく石原慎太郎は政治家としての注目を浴びた。しかしそこに至るまでの間彼は政治の世界のみに執着し活動していたのではなかった。「では?」。そこで今回はこの問いを、「芥川賞事件」・「作家魂」をキーワードにして石原慎太郎の実像を考えてみる。

(2014年度) 11月12日

生活と微生物学

山本 恭子 (教授) 私たちが暮らしている環境には多くの微生物が生息しており、ヒトと微生物はひとつの世界の中で共存しています。普段、意識することはあまり無い微生物をヒトの生活という側面から覗いていきたいと思います。

(2013年度) 11月22日

子育ては正解がない営みである

上野 恭裕 (教授) 少子化、核家族化、都市化、情報化などの影響を受け、子どもを取り巻く環境は、必ずしも望ましい方向に変化しているとは言えません。その中で親は、幼稚園・保育所と連携して、子育てにあたるべきかという問いに対して、多角的な視点でお話ししていきます。

(2012年度) 11月12日

源氏物語にえがかれた知と情

福嶋 昭治 (教授) 源氏物語第二部の始まり、若菜上の巻では、女三宮の降嫁による紫の上の苦悩が、描かれています。紫の上の心奥の知と情を物語の本文を味読することで探ります。そして、源氏物語をいま読むことの意義を確認します。

(2011年度)

土地の記憶を活かしたまちづくり-「ふるさと怪談」の民俗学-

大江 篤 (教授) 岩手県遠野市では日本民俗学の創設者、柳田國男の『遠野物語』によるまちづくりが行われています。この講義では、近畿地方の怪異・怪談を紹介しながら、民俗文化を活かしたまちづくりを考えていきます。

(2010年度)

多文化都市大阪-

松山 利夫 (本学シニア専修コース講師) さまざまな意味あいでもグローバル世界といわれる今日は、多文化共生の時代でもあります。多くの民族がひとつの国で共に生きる例がふえ、人びとの構成も時代とともに変化してきました。日本もアイヌや沖縄人、中国や韓国・朝鮮のひとたちをはじめ、多くの民族と文化が共生する時代をむかえています。私たちの住む大阪もまた、多民族・多文化都市です。さまざまな民族や文化の出会いがもたらした摩擦や同化、あらたな価値の創造に着目し、これからの国際社会と大阪を考えます。
